

松尾壽之博士の略歴と業績

松尾壽之先生は、昭和34年東京大学大学院薬学系研究科博士課程を修了され、東京大学薬学部助手に採用以来、理化学研究所研究員、米国チューレン大学医学部助教授、大阪大学医学部助教授等を経て、昭和53年宮崎医科大学医学部教授に就任されました。その後、平成元年国立循環器病センター研究所長に就任され、平成9年同研究所退職に伴い名誉研究所長となりました。また、平成14年4月から平成15年9月まで宮崎医科大学長を務められ旧宮崎大学と宮崎医科大学の統合による新生宮崎大学の創設に尽力されました。



松尾先生は、有機化学の深い造詣を根底に、ペプチド化学分野において独自の метод論を確立され、世界をリードする数多くの卓越した研究業績を挙げておられます。多岐に渡る業績の中でも「新しいペプチドホルモンの探索研究」は、生体情報の伝達機構の解明という基礎科学的側面はもとより、内分泌・神経内分泌や循環器病学などの臨床医学分野にも多大な影響を与えたご研究です。ペプチドC-末端トリチウム標識法の開発を端緒に、黄体形成ホルモン放出因子(LH-RH)の構造決定に成功され、これはSchally博士(米国)のノーベル賞受賞に大きく貢献しました。また、独自に開発した超微量ペプチド研究法を駆使して、多数の脳・神経ペプチドを発見されました。さらに特筆すべきは、利尿及び血圧降下作用を持つヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド(ANP)の精製と構造決定の研究は世界的に大きな反響を呼びました。そして、そのホモログであるBNP, CNPを相次いで発見し構造を決定されました。既にANPは新しい急性心不全治療薬、BNPは鋭敏な心不全診断薬として実用化されており、これらは、未知の生体情報調節因子の同定から診断・治療法の開発や医薬品の創製まで結びついた代表的な研究例の1つです。これらの研究を通して、多くの俊秀を育成され、血管系情報を調節するアドレナリン(AM)や摂食・成長ホルモン分泌・エネルギー代謝を調節するグレリンの発見などへと繋がりました。

松尾先生は、これらの研究業績で武田医学賞、西日本文化賞、朝日賞、日本学士院賞、岡本国際賞、高峰譲吉賞などを受賞され、平成17年には瑞宝中綬章の叙勲を受けられました。また、平成14年から平成20年まで宮崎県COE総合プランナーを務められるなど宮崎県の科学技術振興に大きく貢献されました。さらに平成22年11月には文化功労者として顕彰されました。

学歴・略歴

昭和29年 3月 東京大学医学部薬学科卒業
昭和34年 4月 東京大学大学院化学系（薬学）博士課程修了（薬学博士）
昭和35年 4月 東京大学薬学部助手
昭和39年 1月 理化学研究所研究員
昭和45年10月 Tulane 大学医学部助教授
昭和50年 8月 大阪大学医学部助教授（薬理学）
昭和53年 4月 宮崎医科大学教授（生化学）
平成 元年 4月 国立循環器病センター研究所長
平成 9年 3月 定年により退官 名誉所長
平成14年 4月 宮崎医科大学長
～15年 9月
現在 国立循環器病センター名誉所長
国立大学法人宮崎大学名誉教授（特任客員研究員）

受賞等

昭和59年11月 武田医学賞（武田科学振興財団）
昭和61年11月 西日本文化賞（西日本新聞社）
昭和63年 1月 昭和62年度朝日賞（朝日新聞文化財団）
平成 元年 3月 第79回日本学士院賞（日本学士院）
平成 8年 第11回岡本国際賞（成人血管病研究振興財団）
平成10年11月 第1回高峰譲吉賞（日本心血管内分泌代謝学会）
平成17年 4月 叙勲（瑞宝中綬章）
平成22年11月 文化功労者

学会での活動

平成10年 日本生化学会 名誉会員
日本薬学会 名誉会員
平成11年 日本内分泌学会 名誉会員
日本高血圧学会 特別会員